

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502165		
法人名	有限会社 ライフケーアイ		
事業所名	グループホーム らいふ敬愛		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条5丁目4-8 (電話) 011-855-0355		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年11月13日

【情報提供票より】 ( 21年 10月 1日事業所記入 )

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人、	非常勤 3人、 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1～2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円
敷 金	有 ( 円)	(無)	暖房費:10,000円(11-3月)
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 124,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 ( 10月 28日現在 )

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.5 歳	最低 74 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道医療生活協同組合、緑愛クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>らいふ敬愛は住宅地の中にモダンな造りで近隣と違和感なく存在し、地域住民と良好な関係がもたれている。介護度の高い利用者も主体的にその人らしく仲間造りが構築されている。食事をはじめ、日々の暮らしが利用者として楽しく笑顔いっぱい過ごすことができるように工夫と努力がある。入浴日を固定化し、行事や遊びに充分時間を使うことができるように配慮されている。明るい居間や居室は利用者にとって馴染みの場所となり、ユニットの垣根をはずした取り組みが各所に見える。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題については積極的な取り組みで4項目とも改善がみられる。4項目は同業者との交流を通じた向上・馴染みながらのサービス利用・重度化や終末期に向けた方針の共有・プライバシーの確保の徹底の各項目である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価に取り組み、課題を認識して外部評価に望んでいる。話し合いの時間をもち、理解不足な点も多々あるが共通の意義を確認している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は幅広い方面に参加を依頼し、事業所の行事報告や実践の紹介など詳しく行い地域の理解度が増した。地域との連携が良好になった。利用者と共に高齢者宅を訪問したり、ボランティアの受け入れが開始された。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族へは毎月ユニットごとに写真を掲載したお便りを発行し送付している。さらに面会の頻度が多く、家族と気軽に話し合いをもち日常のケアに活かした取り組みをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は町内会に加入し、回覧板や会長はじめ役員を通じて地域活動や事業所のPR、さらにボランティアの受け入れなど日頃から良好な交流がある。事業所の夏祭りや敬老会に地域の方々やボランティアに参加して頂いて一緒に楽しんでいる。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設置者の思いを実現し、運営理念の中に地域に存在するホーム造りを目指し、楽しく暮らす事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は名札の裏面に理念を記載して所持し、事業所の壁面に掲示して実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入し、回覧板や会長はじめ役員を通じて地域活動や事業所のPR、さらにボランティアの受け入れなど日頃から良好な交流がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、課題を認識して外部評価を活かした具体的な改善項目に真摯に取り組んでいる。外部評価当日は代表者と管理者が対応し、適切な書類の準備など評価への姿勢が良好であった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、地域代表者をはじめ家族や地域包括職員など多方面からの出席があり、事業所への理解が深まってきた。特に地域との関わりが良好になり、協力が相互になりつつある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・区の管理者会議やケア連絡会議などに参加し、必要に応じて行政の担当者と連絡を密にしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所では毎月ユニットごとに利用者の写真を主にした「らいふだより」を発行し家族に送っている。また、職員の異動は管理者のみであるが、文書で報告し、金銭の明細も知らせている。健康に関する状況報告はその都度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置しているが利用はない。家族が来訪時に気軽に言葉かけができるように、信頼関係をつくり実践に取り組んでいる。また、運営推進会議の出席で意見を聞き運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去に管理者の交替や職員の退職など頻繁にあったが、現在は落ち着いて利用者への影響はほとんどない。また、ユニットの垣根をはずした合同の行事や日頃の交流で、全職員と良好な関係になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育てる仕組みを工夫し、毎月勉強会を実施してテーマを決めて学びをしている。しかし、他の会合と共有しているので研修独自の時間配分が望ましい。また、新任職員の研修マニュアルについて検討中である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や管理者は同業者との交流の意義を認識し、複数事業所連携事業に積極的に関わり、他の事業所と職員や利用者の交流の機会を持っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所としての基本姿勢に基づき、利用者を選定して利用を開始している。馴染みの関係づくりを工夫し、利用開始前に自宅を訪問したり見学や話し合いを十分にもち、双方が納得してから入居を開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごす時間を多く持ち、作業や遊びを通してお互いに「らいふ敬愛」の住人として喜怒哀楽を共にし、笑いが多くあって支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と会話を多く持ち、意向を確かめつつ日々のケアに取り組んでいる。生育暦や思いを把握するように寄り添うケアを実践している。また来訪時に家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、職員1名に対して利用者2名の担当制でアセスメントを作成している。介護支援専門員はアセスメントを参考に、家族の思いや意見を聞き暫定的な計画を作成し、全職員で検討後に正式な介護計画を作成している。	○	毎月1回の会議では、介護計画や勉強会・さらに職員の連絡や行事の打ち合わせなど盛沢山の内容となっている。今後は介護計画のみの会議を行う事で、より一層の内容の充実が図れるよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の会議で利用者全員の状況を把握し、3ヶ月毎にモニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。状態に変化が見られない場合は6ヶ月毎に見直しを行う場合もある。身体的な状態変化や介護度の変化などにより随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の場合、家族が困難な時状況に応じて職員が受診送迎を行っている。本の好きな利用者を図書館に連れて行ったり、買い物と一緒に出かけ、家族の希望に応じて自宅まで送迎する事もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続受診は可能であるが、利用開始時に協力医療機関の説明も行い選択してもらうようにしている。家族が受診送迎を行う時は、利用者の健康状態を看護師や職員が報告し、受診後は家族から結果を聞く事で適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針」を作成して利用開始時に事業所の方針を説明し、家族や医療機関など関係者から同意書に署名捺印を得ている。職員の心構えとして「終末期における看取り介護対応マニュアル」を作成して、職員間で対応を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者や管理者は、虐待防止の研修時に利用者に対する適切な言葉かけについても指導している。排泄誘導は、他の利用者から離れた所で声をかけるように配慮をしている。申し送り時は、利用者に配慮して名前はイニシアルや書類で確認し合うようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーション、食事時間など1日の基本的な流れは決められているが、それぞれの利用者の体調に配慮しながら気持ちを尊重した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は健康に配慮した野菜中心のメニューで、利用者の希望を取り入れながら1週間分ずつ職員が交代で作成し、管理者が内容をチェックしている。食事の準備や配膳、下膳など利用者ができる場所で参加し、職員も同じテーブルで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回入浴日を決めているが、利用者の希望に応じていつでも入浴は可能になっている。身体的に入浴が困難になった時は、シャワー浴や二人介助による入浴を行っている。入浴を拒否する時は、足浴に誘うなどの工夫をして入浴できるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	床や手すりの掃除、洗濯物たたみ、利用者の見守りなどそれぞれの利用者に応じて役割をもって生活できるように支援している。パズルやゲームをしたり、歌の会を開いたり、日帰りの温泉旅行に出かけるなど利用者が楽しんで生活できるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じて近隣を散歩したり、地域住民の家で庭を見せてもらうなどそれぞれの利用者に応じて戸外に出かけられるように支援している。屋外行事として年間計画を作成し、お花見や紅葉狩り、花火大会など計画的に外出する機会を作って支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の無断外出状況により、家族の希望で1階ユニット玄関のみ市役所に相談して日中も施錠している。ドアにはセンサーを設置して、外出しようとした利用者にはさり気なく声をかけて一緒に外出するなど、利用者の希望に応じて出かけられるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の予定は、近隣住民に回覧を回して通知し、消防マニュアルを作成して年2回消火、通報、避難訓練などの総合訓練を利用者と共に行っているが、消防の参加や夜間想定訓練は今年実施していない。今年度はスプリンクラーを設置し、火災時の防火に備えている。	○	運営推進会議などにおいて、災害時に於ける地域の協力体制を依頼しているが困難な状況が伺える。しかし、消防署職員の協力などを得ながら、夜間想定訓練が実施されるよう期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの利用者の食事摂取量、水分摂取量は生活日誌に毎日記録している。献立は、年1回保健センターの栄養士の点検でアドバイスを受けている。利用者の体調に応じて量を加減したり、食べやすいような形態にするなどの配慮をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、職員手作りの日めくりやカレンダー、季節の紅葉などがさり気なく飾られ、季節感を感じながら落ち着いて過ごせるように配慮がなされている。日当たりの良い中庭にはベンチを配置し、夏は花を楽しみながら外気浴ができるようになっている。台所は対面式で共有部分の中央に位置し、利用者が常に生活感が感じられるような配置になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアの取っ手はシンプルなデザインで、どの部分に手をかけても開閉しやすいような工夫がされている。入口には職員手作りの表札がかけられ、室内には使い慣れたタンスや小物入れなど好みの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせるように工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。